

Sailing Team Japan Newsletter

2013 年 10 月 Vol. 3



1. 2020年オリンピック東京開催決定
2. 9-10月ナショナルチーム海外遠征報告
3. オーストラリア Perth レーザーラジアル級海外合宿
4. みやぎジュニアトップアスリートアカデミー
5. クラス紹介:420級
6. 10月以降の強化スケジュール

Newsletter Vol. 3をお届けいたします。

本号では、まず 9 月 7 日ブエノスアイレスで開催された第 125 次 IOC 総会において 2020 年オリンピックの開催都市が東京に決定したことを受け、①計画中的のセーリング競技会場等の情報を。②に 9-10 月海外遠征報告、③初の試みとしたレーザーラジアル級海外合宿報告、さらに復興支援事業参加、またクラス紹介として「420 級」を取り上げました。最後に 11 月以降の強化活動スケジュールをお知らせいたします。

1. 2020年オリンピック 東京開催 決定

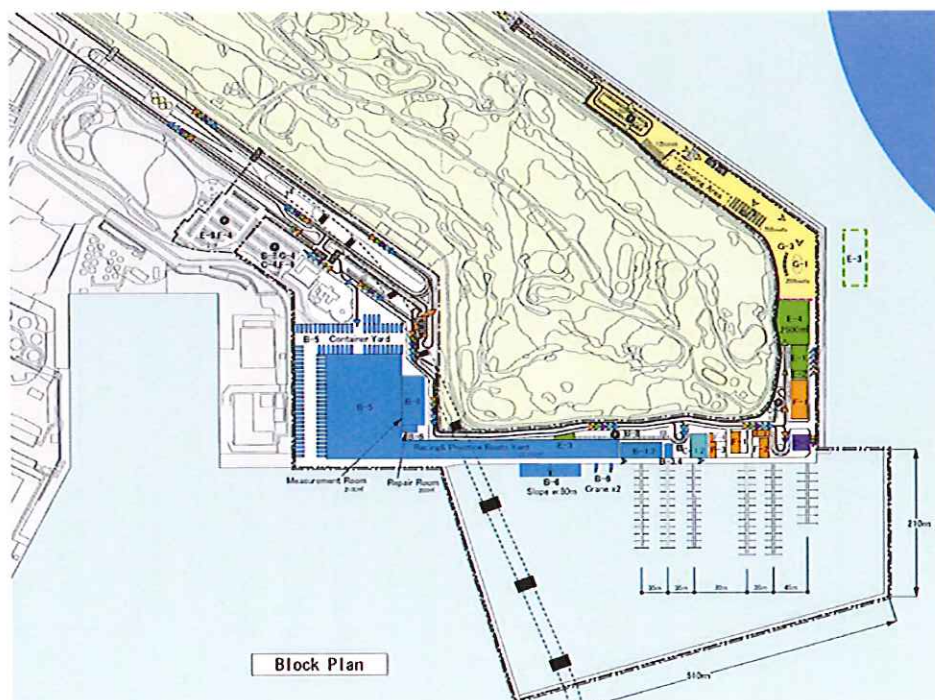
日本時間 9 月 8 日未明、世界注視の中、国際オリンピック委員会 (IOC) のジャック・ロゲ会長 (当時) が 2020 年の夏季オリンピック開催都市を「トーキョー」と告げた瞬間、日本国内には歓喜がこだましました。

1964 年以来 2 度目のオリンピック東京開催です。

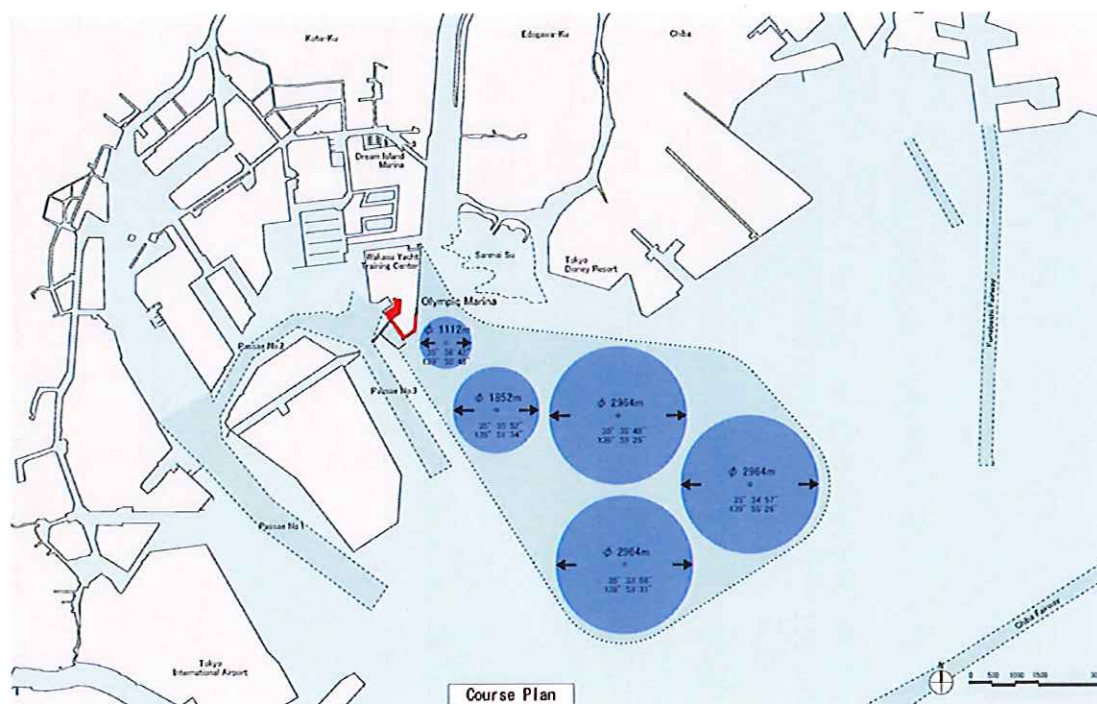
開催都市投票の前におこなわれた日本招致委員会メンバーによる最終プレゼンテーションはそれぞれが感銘深いものでした。

流暢なフランス語と英語による高円宮妃久子さま (日本セーリング連盟名誉総裁もお務めいただいています) の被災地支援の御礼ご挨拶に始まり、女子パラリンピアン・陸上佐藤選手のスポーツから勇気を得た感動のスピーチ、男子オリンピック・フェンシング太田選手のオリンピックを東京に迎える強い意志のアピール、そして滝川クリステルさんの「お・も・て・な・し」等々、官民挙げたチームジャパンの努力がついに実りました。今回の招致活動に携わられたすべての関係者の方々に敬意を表する次第です。(当連盟河野博文会長も日本オリンピック委員会副会長として現地 IOC 総会に出席しました)

東京オリンピックは 2020 年 7 月 24 日～8 月 9 日、同パラリンピックは 8 月 25 日～9 月 6 日の日程で開催されます。セーリング競技会場として表紙にあるとおり江東区若洲の「若洲ゴルフリンクス」<http://wakasu.golftk.com/>の海側に総工費 100 億円 (予定) を投じて下記レイアウトのオリンピックハーバーが新設されます。



レースコースは沖合に大小5コースが設定される予定で、都心からも近く、多くの観客の来場が期待できます。



東京オリンピックのセーリング競技種目は 2016 年リオオリンピックの前年には決定する予定ですが、日本セーリング連盟(JSAF)では今後日本人に最も適した種目である470級男女種目が存続する様に働きかけを行う予定です。また、日本は開催国であるために参加国枠獲得の必要はなく、実施全種目に参加することが可能となります。

JSAF では 2020 年に向けての強化・育成プログラムを立ち上げ、組織をあげて若手有望選手の発掘・育成に全力で取り組む所存です。

JOC を始め各補助金支給団体も 7 年後に向け、補助支援の増額を行うことが十分考えられます。
また、前述のとおり私ども河野会長も本年6月より JOC 副会長に就任、精力的な活動を進めております。
こうした好環境を十分生かし、JSAF はさらなるセーリングスポーツ発展にまい進することといたしております。

東京開催というアドバンテージはありますが、それまでの選手強化の中心は従前のとおり、強豪ひしめくヨーロッパを主とした海外遠征活動になります。

国等の補助等が増額されるとは申せ、セーリングアスリートの強化・育成には遠征 & 艇輸送費など多額の費用を要することをご理解いただき、今後共ご支援ご助力をお願い申し上げる次第です。

2. ナショナルチーム海外遠征報告

9－10月に実施したナショナルチーム海外遠征3事業の報告をいたします。

(1) プレ ISAF 世界選手権大会(テストイベント)

来年リオオリンピック参加国枠が掛かる ISAF 世界選手権大会のプレ大会として開催され日本から7クラス13名の選手が参加いたしました。

●開催期日:9月9日-15日

●開催場所:スペイン・サンタンデル

●日本代表選手と成績

・470 級男子(43 艇・18 か国)

土居 一斗・今村 公彦組(アビームコンサルティング) 9位

・49er 級 (7 艇・5 か国)

牧野 幸雄・高橋 賢次組(トヨタ自動車東日本) 3位

・49erFX 級(4 艇・4 か国)

波多江 慶・大熊 典子組(豊田自動織機)－NT 外参加 1位

・レーザー級(47 艇・25 か国)

安田 真之助(京都府立宮津高等学校教員) 14位

谷口 斉謙(島精機製作所) 20位

・レーザーラジアル級(26 艇・19 か国)

土居 愛実(慶応義塾大学) 1位

原田 小夜子(長崎県セーリング連盟) 11位

・RS:X 級男子(33 艇・24 か国)

富澤 慎(トヨタ自動車東日本) 5位

・RS:X 級女子(24 艇・18 か国)

大西 富士子(TEARS) 11位

伊勢田 愛(ピワコムリンスポーツクラブ) 12位

●JSAF 帯同スタッフ:

・中村健次

・飯島洋一

・宮野幹弘

・斉藤愛子 以上オリンピック強化委員会

・萩原正大(JISS)

・石川裕也(トヨタ自動車東日本)

・ルスラナ・タラン(アビームコンサルティング)

大会初日の8日、前日の7日に東京五輪開催が決定したことを受け、選手、スタッフともに、至る所で「Congratulations!」の声をかけられ、「東京の風はどうなのか?」「行くのが楽しみだ!」と普段は話をしたことも

ないような人からも祝ってもらい、大いに盛り上がりました。

今回のテストイベントは来年同じ場所で開催される 2014ISAF 世界選手権の準備活動をいたしました。来年の大会で五輪参加国枠の 50%が決まるので 6 海面に分かれるエリアの状況や、ターゲットとする風域の見定め、どんな準備をしなければならないかを調査しました。

参加国・艇数は 49er と 49erFX は 9 月下旬にフランス・マルセイユで世界選手権があるため 10 艇に至りませんでしたが、他クラスのエントリーは予想よりも少なめながら英国、フランス、オーストラリアは強い選手を送り込んでおりレベル高いメンバーが揃った大会となりました。

その中でレーザーラジアル級の土居愛実が優勝、RS:X 男子の冨澤慎が 5 位の好成績を収めました。土居は 2011 年のラジアルユース World で銀メダル、ISAF ユース World で 4 位、また本年 7 月のラジアル U-21 World で銀メダル、やっとビック大会での優勝で大きな自信となると思います。



金メダル獲得の土居愛実、左は 2 位の TUR (トルコ)Cagla Donertas、右は 3 位 GBR (イギリス)Chloe Martin



開会式で日の丸をもって行進してくれた地元スペインの少年

大会 5 日目総合 3 位の赤マークを付けてレース中の土居
この日 3 レースを 4、1、2 位とまとめ総合 1 位になる



帯同したコーチ陣のコメント

ダブルハンド: 中村健次

470 級は日本から男子 1 チームのみの参加となりました。各国からの参加も 470 級世界選手権が 8 月中旬までであったためか、参加数は世界選手権の半数 と多くない状況でした。

大会期間中は軽～中風域で、レース海面が設置されている外海はうねりと潮流による影響で、複雑な波があり、艇のコントロールが難しい海面で あった事、また、大会前半戦では丘を越えてくる陸風のため、風の強弱・変化が激しいのも印象が残ります。そんな中、今回参加の男子: 土居・今村は大きくレース海面を見て風の強い場所を的確に走らせ、中盤まではトップグループと互角に渡り合えたことは次年に向け期待を持たせてくれました。一方後半戦の海風では風が比較的安定しているため、スタートの飛び出しと、ボートスピードの良し悪しで順位が決まったところもあり、土 居・今村はこのスタートとボートスピードの向上に課題が残りました。

49er&FX はこの大会直後に世界選手権が控えていたため、参加数は非常に少ない状況でしたが、来年の 2014 年 ISAF 世界選手権 (リオ・オリンピック国枠獲得大会) を意識し、海面、環境の状況を確認するために出場しました。特に潮流と波の状況を確認できたことは大きな 収穫であり、今後の練習会場選びに参考になりました。

RSX 男女: 宮野幹弘

男子に関しては、トップの選手たちと争うことができ

目標よりも良い成績を取ることができたが、今後トップを目指すための課題も見つけたので来年の本番に向けて頑張りたい。

女子に関しては、自らのミスをするが多く目標であるトップ 10 に入ることができなかった。今後の国内強化合宿で課題を強化し今年よりも良い成績が取れるようにしたい。

(2) 49er 級(男子)・49erFX 級(女子)世界選手権

49er 級および2016年リオオリンピック女子種目になった49erFX 級世界選手権がフランス・マルセイユで開催され日本から各1チームが参加いたしました。

《FX 級は男子と同じ艇体を使用しセール面積が小さくなっています》

●開催期日: 9月21日-29日

●開催場所: フランス・マルセイユ

●日本代表選手と成績

・49er 級 (27 か国 99 艇)

牧野 幸雄・高橋 賢次組(トヨタ自動車東日本) 18位

・49erFX 級(20 か国 52 艇)

波多江 慶・大熊 典子組(豊田自動織機)ーNT 外参加 34位

●帯同コーチ: ・中村 健次(JSAF ナショナルコーチ)

・石川 裕也(トヨタ自動車東日本)

・桑野 安史(トヨタ自動織機株式会社)

男子 牧野・高橋組 総合 18 位 ワールド過去最高位

今大会はトップ 10 まであと一歩といった内容のシリーズでしたが、結果を分析すると昨年のロンドン五輪(国別)では 18 位、世界選手権では 23 位という結果でしたので、牧野・高橋組にとって今回の世界選手権で過去最高の成績を収めることができたことは、少なからず進歩が結果として表れたと思います。

これらの結果に繋がった一番の要因は、ロンドン五輪以降、チューニングを大幅に変更し調整を重ね、軽風～強風までの全てのコンディションで安定してスピードが向上したことです。スピードの課題が克服されつつあることが確認できたことは大きな収穫でした。その反面、別の課題として「混戦時の他艇に対するポジショニング」「ダウンウインド(風下レグ)のスピード」が、まだまだ克服できていないことが、明確になった大会でもありました。この 2 点が克服できれば間違いなく世界でもトップ 10 に入ることができるレベルにまできているだけに、非常に悔しい思いをしています。

とくにトップレベルのチームだけで行われるゴールドフリートのレースでは、やはり普段競り合った中(プレッシャー)での経験が多いチームと、1 艇での練習での差がより顕著に出たのではないかと感じました。とにかく、この点については、対策を練り直し、なんとかして克服に取り組んでいきたいと考えています」

女子 波多江・大熊組 総合 34 位 初陣として収穫大

シルバーフリートの波多江・大熊組は艇のコントロールに自信がまだ持てないのか、スタートから積極的に攻めることが出来ず、常にスタートラインの有利不利にかかわらず空いたスペースを見つけてスタートすることで精一杯でした。また、風の変化が多いと走らせることに集中せざるを得ないことで一番重要な風を見ることができず、後追いのレース展開を強いられましたから、なかなか前を走ることができませんでした。本日 17-28 でシルバーフリート 13 位、総合 34 位で大会を終えました。

やはりスキフ艇性格を理解するためにはもう少し時間が必要なのかもしれません、帰国後は基本動作の『艇を自在にコントロールできる』練習を積み重ね、来シーズンに向けトレーニングするしかありません(ただ、FX クラスでいえることはトップ数艇のみが上手になっているだけで、まだまだ未完成なクラスだということです。彼女らのチャンスは無限です)。



マリーナの49er 各艇



49er 級のスタート



スピランの牧野・高橋組

帆走中の女子49erFX 級 波多江・大熊組



帯同した中村健次コーチのコメント

男子 49er 級は1997年にオリンピック種目として採用され、2000 年シドニーオリンピック採が最初のオリンピックとなりました。日本はシドニーオリンピックから前回ロンドンオリンピックまで連続して出場している種目です。日本に競技者が少ない事、大柄な選手が有利とされているため、普及させるのに苦勞している種目です。

一方、女子 49erFX 級はロンドンオリンピック終了後にリオ・オリンピックに正式に採用された種目です。

今回で 16 回目の世界選手権を迎える 49er 級は選手の競技レベルが熟成の域に有り、メダル獲得を目標に臨んでいます。中風域まではトップレベルとの差は少なく上位を走る力をつけていると言えます。中風まではトップグループと拮抗した戦いを見せてくれたのが今回は因習的でした。しかし、強風域では少し競技力が劣っていると言え、今後の練習環境の確保(強豪国強化練習参加など)が必要です。

女子 49erFX 級については、強豪各国は直ぐに選手が活動に名乗りを上げ、強化活動を進めていましたが、日本は本年 4 月に初チーム結成と言う、他国に比べ半年遅れの活動開始となりました。今大会トップ 5 か国は組織的な強化、チーム数が多く競争の機会が多く有り、レベル差を感じたところも有りますが、それ以外の国はまだ、競技力は低いと見受けられ、男子 49er 級同様に練習環境の確保が必要と考えます。

今大会は予選が軽風～中風の中行われ、決勝に入ると強風域のシリーズとなりました。

前述のとおり、セーリング競技は自然相手であり大会期間も 1 週間近く行われるため、レース条件(風の強さ、波、潮流など)が変るため、不得意な風域を無くすことが勝利の近道とも言えた大会でした。

女子 49erFX 級もリオ・オリンピックから採用された事、2020 年東京でもこのクラスはコアイベントとして決定している事から、ユース世代からの活動開始する事が重要と考えます。

(3)レーザージャリアル級世界選手権

レーザージャリアル級世界選手権が中国・日照で開催され日本から6チームが参加いたしました。

●開催期日:9月28日-10月7日

●開催場所:中国・日照

●日本代表選手と成績

レーザージャリアル級(31か国77艇)

土居 愛実(慶応義塾大学)	21位
蛭田 香名子(豊田自動織機)	39位
原田 小夜子(長崎県セーリング連盟)	43位
田畑 和歌子(アビームコンサルティング)	53位
長谷川 哲子(豊田自動織機)	66位-NT 外参加
高竹 瑞恵(広島県セーリング連盟)	73位-NT 外参加

●帯同コーチ:飯島 洋一(JSAF アシスタントナショナルコーチ)

田中 年彦(株式会社 豊田自動織機)

2013 年レーザージャリアル女子世界選手権は中国・日照(北京五輪のセーリング競技が開催された青島から南西へ100km)で開催されました。日照は 2006 年に 470 級世界選手権が開催され、当時の女子・近藤/鎌田組が準優勝した場所、また当地は日本、中国、韓国でキールボート親善レガッタも行われています。

微・軽風シリーズとなった青島での五輪大会同様に軽風の6~12ノットの風で全12レースが行われました。

先月スペイン、サンタンデルで行われた ISAF World テストイベントで優勝した土居 愛実はその勢いで今大会での上位を目指し、他の 5 選手も土居に追い付け追い越せのチームとしては非常に良い雰囲気で見ましたが結果は土居 21 位 蛭田香名子 39 位とゴールドフリートには2艇のみ進出の結果となりました。

しかし、初めてのゴールドフリートの蛭田のセーリング。予選落ちしてしまいましたが原田、田畑、長谷川たちの闘争心溢れる戦いをしていました。また高校生の高竹もこのレース期間中に大きく成長したとおもいます。全選手とも今大会での気持ち・闘争心をリオ五輪最終選考会まで維持し続けて、練習を重ね、素晴らしいパフォーマンスを見せて欲しいと思います。



開会式に向かう日本チーム6選手と何から何まで世話をしてくれたボランティアのキョウさん



ゴールドフリートに残った土居(上)と蛭田(右)



今回、健闘した高校生の高竹



表彰式での 1 位クロアチア 2 位 フィンランド 3 位 アメリカ

帯同した飯島コーチのコメント

2013 年レーザーラジアル女子世界選手権は中国・日照で開催された。中国で開催ということで衛生面が非常に心配されていたが、宿泊先は 5 ツ星の高級ホテルで何一つ不具合なく過ごすことができた。朝食、夕食はホテルのビュッフェで非常に美味しかったのだがメニューが単調で飽きてきてしまい食欲が落ちていた選手もいた。昼食は日本より持参した炊飯器と米でおにぎりを準備した。

レースは軽風の 6~12Knot の軽風が続いたが比較的安定しており予定していた 12 レースを行うことができた。当初目標にしていた 4 名ゴールドフリート進出という目標は果たせず、2 名のみの決勝進出になった。しかし、土居愛実が総合 21 位と自身の持つ世界選手権最高位を更新した。予選でトップ、決勝で 3 位と素晴らしい走りを見せてくれた。2 度のブラックフラッグルールで失格になったが、2 つの捨てレースに救われた。今後、ブラックフラッグルールの際のメンタル、スタートテクニックを見直さなければならぬと感じた。他に蛭田がゴールドフリートに残ったが 39 位(ゴールドフリート最下位)となり決勝フリートのレベルの高さを痛感した結果となった。その他の選手はシルバーフリートとなったが予選シリーズでは決勝シリーズを目指して善戦していた。その姿は何度打たれても立ち上がってくるボクサーのようで彼女たちの闘争心には感動すら覚えた。また、軽風だったこともあるが日本を含めイエローフラッグルールで失格となった選手が多かった。今後、更なるルール 42 の勉強が必要である。

日本選手達は陸上で非常によくまとまって良い雰囲気であった。このまま選手間で良い関係を保ちながら RIO を目指し頑張っていってほしいと思う。

リオ・オリンピックに向けラジアル級の競技力向上とロンドンオリンピック 1 年後の各国の強化の状況の把握の為、遠征を行う必要がある。

今回は、土居愛実が 21 位と自身のもつ世界選手権最高順位を更新した。国別成績でも 15 位と入賞が期待できるレベルまであと一歩というレベルまで到達することができた。

今回はスタート時のブラックフラッグでのスタートによる失格が多かった。今後この失格に対する対応策を考えなければならない。また、土居を含めダウンインドのセーリングの上達が必要だと改めて感じた。

4. みやぎジュニアアスリートアカデミー

みやぎジュニアアスリートアカデミー「夢・復興」ジュニアスポーツパワーアップ事業実行委員会」主催の第5回アカデミーが、9月7日(土)セーリング競技およびボート競技を対象種目として開催され JSAF からアテネオリンピック銅メダリストである関一人氏が講師として参加いたしました。

開催の目的は①東日本大震災の復興に向かう県民の夢や希望を広げる一助とする。

②被災した宮城県に在住している運動能力の高い子供達に様々なスポーツを体験させ元気つける。

③才能のある選手を発掘・育成し、スポーツを通じて復興を牽引していく人材を育てて行く

④将来のオリンピックメダリストやトップアスリートとして活躍する子供たちの育成に取り組む

こととしています。

この事業はセーリングを含め、29種目で行われています。



パワーポイントでの講義

当日は小雨の降るあいにくの天気でしたが、初めてヨットに触れる元気な小学生約 20 名に関一人氏が指導を行いました。

子供達は、少ない時間の中、最後にはレースが出来るまでになり、彼等の飲み込みの早さを実感しました。今後も復興の一助となるべく、セーリングを通じた復興支援を JSAF として継続的に行っていきたいと考えています。

艇体を使った艀装の説明



5. 420級について

2015年インターハイ、国民体育大会からユース世代の競技艇として採用が決定した420クラスについてご紹介をさせていただきます。

420 級は、1960 年にフランスのクリスチャン・モーリー（Christian Maury）によってデザインされた2人乗りのディンギーです。420(ヨンニーマル)という名称は、艇体の全長が 4.2m であることに由来したものです。

同クラスは ISAF 認定されたインターナショナルクラスで世界的普及しています。今まで 56,000 隻のボートが建造されており、セイルナンバーは国際 420 協会より発行され、世界的に連番となっています（国内で活動している艇では、スナイプ級やレーザー級などが同じ形式をとっています）。大きな浮力タンクがあり、沈状態でもボートは非常に安全で、世界中の 43 ヶ国でユース世代のトレーニングボートとして活用されています。全国レベルや国際レベルの大会でも採用されており、現在も年間約 350 隻のボートが作られています。



《艇体》

全長: 4.20M

全幅: 1.63M

マストの長さ: 6.26M

帆走重量: 100Kg

艇体重量: 80Kg

《セールエリア》

メインセール: 10.25㎡

ジブセール: 2.80㎡

スピナーカー: 9.00㎡

JSAF ではインターハイ、国体に採用されたことを受け、艇の普及に取り組み、多くの個人、企業から支援をいただき、廉価で各都道府県、高校等に2012年40艇、2013年50艇、2014年40艇の計130艇を配布する事業を推進しております。

・420級の特性

- ① ユース世代を中心に世界で最も普及している 2 枚帆の 2 人乗りディンギーであり、各世代の優秀なセーラーを輩出し続けている。帆走性能はもちろん高いところにあるが、安全性の確保が容易なところに最も普及している理由がある。
- ② 非常に厳格なクラスルールを有しており、艇の性能差が非常に少ないのが特徴である、ダブルハンドの入門艇としては最高の艇種である。

- ③ 理想の体型はヘルムスマン・クルー合わせた合計体重が 115～125kg 程度。ジュニアユース世代の体格にマッチしたクラスである。
- ④ このクラスから 470 級や 29er 級、49er 級などへステップアップするのが世界の流れであり、ユース世代最高峰の大会である ISAF Youth World の正式種目として採用されている。



420 級



470 級



インターハイ、国体に採用されたことにより、ユース世代が世界に羽ばたくチャンスが増え、470 級にも繋がり、将来性のある有望な選手が数多く輩出されることになると思います

レース中の420級



・420級世界選手権大会日本開催

2015 年 7 月 17 日(金)～7 月 25 日(土)佐賀県唐津において2015年420級世界選手権大会を開催することが決定しております。

参加は20か国、150艇を予想しております。

日本の数多くのユースセーラーが世界選手権大会に参加することが出来、普及そしてレベルアップに大きく寄与出来ると考えております。

6. 10月以降の強化スケジュール

10月以降年度末3月まで以下の強化事業を行う予定です。

(1) ナショナルチーム

① 海外遠征

・レーザー級世界選手権大会 11月9日-23日 オマーン・アルムサナー

② 2014年ナショナルチーム選考会 12月10日-15日 和歌山 NTC

③ 国内強化合宿

オリンピック種目毎のナショナルチームを中心とした国内強化合宿を複数回開催

国内強化合宿は以下3つのコンセプトで取り組みます

1. オリンピックを目指すアスリートとして必要な基礎体力の更なる向上

2. 2013年世界選手権における各自の課題解決

3. セーリング競技規則(ルール)の理解力向上と応用力の発揮

また、3月には赤羽「味の素ナショナルトレーニングセンター(NTC)」において毎年開催の各専門家によるメディカル、フィットネス、栄養などトップアスリートに求められるさまざまなカテゴリーの精密な診断・判定をおこなう「アスリートチェック(AC)」合宿を開催します。

④ 海外合宿

ユース世代の有望選手も含みレーザーラジアル級のオーストラリア・パースにおける強化合宿を12月、3月に開催

⑤ 海外優秀選手招聘

470級の海外優秀選手を招聘、合同練習会を開催

(2) ユースナショナルチーム

① 海外遠征

・レーザーラジアルユース世界選手権大会 12月24日-1月5日 オマーン

・ユース選抜チームオーストラリア遠征 1月3日-13日 オーストラリア

《3月日本への招聘との交流事業》

② 国内合宿

・ユースナショナルチーム候補合同合宿 3月25日-29日 和歌山 NTC

・水域・コーチ派遣合宿

東日本、中日本、西日本の3水域で水域合宿、コーチ派遣合宿)を複数回開催

③ チーム招聘

3月25日からの合同合宿時に交流事業としてユースオーストラリアチームを招聘

④ 2014年ユースナショナルチーム選考会 3月25日-29日 和歌山 NTC

おわりに

いつも、Newsletterをお読みいただきありがとうございます。

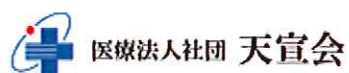
手作りのため、十分な構成ができず、なにかと不備がともないますことをご容赦ください。

ご感想、ご要望などございましたら、お気軽にご連絡いただけましたら幸いに存じます。

次回 Vol.4では3月開催の2014年ナショナルチーム選考を中心にご報告いたします。

今後とも選手強化へのご理解とご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

JSAF 選手強化ご協賛社



多大なるご協力を頂き、誠にありがとうございます。
今後とも、日本のセーリング競技発展のため、何卒よろしくお願い申し上げます。